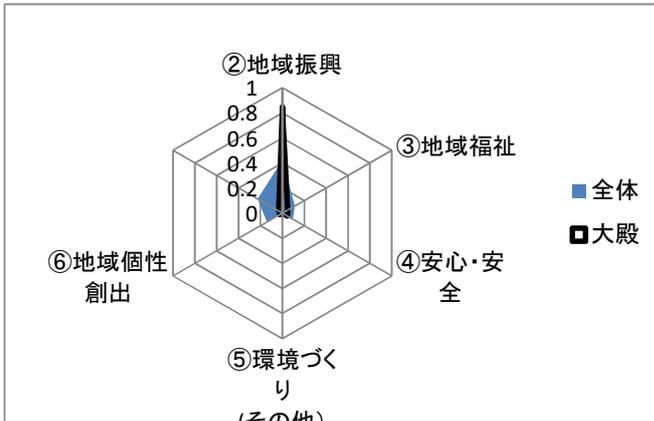


おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(令和5年度)

■地域の情報

地域人口	7,038人	自治会数	29
世帯数	3,196世帯	自治会加入率	89.1%

※数値は、令和6年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,973,000 円
交付金決算額	7,960,752 円
その他収入	1,756,229 円
交付金決算額／配分額	99.8%

各分野の決算

①協議会運営	6,085,060 円
②地域振興	3,081,694 円
③地域福祉	175,670 円
④安心・安全	164,685 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	88,000 円
⑥地域個性創出	121,872 円
決算総額	9,716,981 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

働くところがあり、心豊かに暮らし続けることができるまちづくり

■総括

今年度は、第6期大殿地域づくり計画策定年度となり、策定委員会を開催した(開催日:令和5年9月11日、9月29日、10月23日、11月20日)。策定委員:役員10名、構成団体からの選出者18名、行政からの支援者及び事務局、延べ参加者数72名。分野別の課題の整理や修正は三役会や部会で協議し策定委員会に反映する、策定委員会開催後は運営委員会へ報告するなど、協議の課程を全体で共有した。全4回の日程で次期地域づくり計画書(案)を取りまとめることができた。

専門部会(あんぜん部会・やすらぎ部会・にぎわい部会)と運営委員会の位置づけとして、

- ・専門部会は、地域課題一つ一つの視点を明確にしてその解決策を協議、検討する。

- ・運営委員会は、地域内の連携強化のため「まず知り合うことから」というスタンスで協議を重ねている。

基本目標の「働くところがあり」に込めたやりがいやいきがいにつながるよう、地域住民に幅広い参加を促すタイムリーな情報発信に努めた。地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	・事務局の運営体制
② 地域振興	・地域情報の発信と広報活動事業 ・地域行事の活動支援事業 ・地域の地縁の輪づくり事業 ・地域コミュニティ推進事業 ・地域コミュニティ推進事業(つながり) ・助成金交付事業
③ 地域福祉	・三世代交流事業 ・健康づくり事業(健康体操教室活動支援事業、健康ウォーキング事業) ・おおどのたすけあいのまちづくり事業
④ 安心・安全	・大殿地区安心安全のつどい事業 ・自主防災活動推進事業 ・地域見守り活動事業 ・反射鏡設置事業
⑤ 環境づくり	・環境整備事業
⑥ 地域個性創出	・伝統文化の保存継承事業 ・地域活性化事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	①地域情報の発信と広報活動事業 ②地域の地縁の輪づくり事業 ③地域コミュニティ推進事業(つながり)	決算額	①760,027円 ②338,630円 ③ 59,554円
	目的	①地域情報の共有や発信を進める。 ②地域の伝統文化(祭り)を通して地縁の強化を図る。 ③新たな人材の巻き込みや地域交流を通して連携強化を図る。		
	実施内容	①ホームページの定期更新。広報紙「地域情報みんなのおおど」発行。 ②地縁の復活をめざして取り組んでいることを実行委員会で共有し、各町内会に「大殿七夕ちようちん」と八坂神社に山車を設置。「お家で軒先ちようちんを飾ろう」と呼びかけた。ちようちんサポーターやボランティアスタッフを募集して、地域の方が参加しみんなでちようちんまつりを盛り上げた。 ③研修事業の実施(庭木の学校5月・10月、里山の学校(山登り)11月、消防出初式視察研修1月、ボランティアの学校2月)		
	実施時期	①令和5年4月～令和6年3月 ②令和5年7月～令和6年2月 ③令和5年5月27日・10月28日、11月3日、1月7日、2月16日		
	参加人数	①182人 ②230人 ③100人		
	成果	①事業の告知・報告のほか、地域の各団体からの情報を発信できた。紙面を通じ、やまぐち21元気ミーティングへの意見募集など地域の皆さんの参画を促した。 ②ちようちん事業では、各町内会「大殿七夕ちようちん」の設置と、軒先ちようちん55セットの協賛をいただいた。飾った写真を送ってもらい、HPで軒先ちようちんギャラリーとして発信することができた。 ③5月・10月に実施した庭木の学校では環境美化活動ができた。里山の学校は初心者向け登山として企画した。今年はいじめて実施した「消防出初式視察研修」は、人数が4名と少なかったため、バスではなくジャンボタクシーとなった。地元大殿消防団員の活動、周知や応援を目的とした事業。ボランティアの学校として、オンライン講習会に参加。ボランティア活動の4つの原則を学習した。		
	評価	①広報紙「地域情報みんなのおおど」発行。事業目的の共通理解にたつて年度ごとの「到達点」を明確にし、段階を踏んだ調整を進めていく必要がある。 ②各町内会に「大殿七夕ちようちん」を呼びかけた。また、「軒先ちようちん」も地域の皆さんの協力が得られた。LEDライトを使用してもらい、火事が起こらないよう安全に配慮した。 ③研修事業は新たな参加者を巻き込むための学校シリーズ(多様なメニュー)の検討や参加者同士の交流を深める工夫も必要。健康維持を目的に参加できるものなど。		
	今後に向けて	①地域の皆さんを巻き込んだ情報発信のありかたを引き続き検討していく。 ②会員による事業運営から住民を巻き込んだ事業運営にシフトしていくという視点も入れた協議を深めるとともに、参加したくなる募集告知の打ち方も検討していきたい。今後も八坂神社に山車を設置し、ちようちんサポーターやボランティアスタッフを募集して、地域の方が参加しみんなでちようちんまつりを盛り上げていきたい。 ③引き続き、地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から、住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していく。		
②	事業名	伝統文化の保存継承事業	決算額	59,554円
	目的	地域個性を活用したにぎわいの創出。		
	実施内容	地域のお宝(歴史、文化、祭り)をより深く知る 国宝瑠璃光寺五重塔は現在約70年ぶりに檜皮葺(ひわだぶき)屋根の全面ふき替え工事が実施されている。瑠璃光寺住職の渡邊博志さんを講師に招き、歴史などを学ぶ学習会を開催した。住職さんから日頃聞けない話と専属カメラマンによる修繕中の内部写真の公開などで、より深い学びができた。2月には実際に現地に行ってみようということで、ボランティアガイドの協力を得て、五重塔を中心に見学会を開催した。4グループに分かれて説明を聞きながらの見学。工事中なので囲いの中の様子は見られなかったが、初めて知ることも多く勉強になった。		
	実施時期	令和5年11月28日、令和6年2月4日		
	参加人数	108人		
成果	現在約70年ぶりに檜皮葺(ひわだぶき)屋根の全面ふき替え工事が実施され、地域をよく知る人、知らない人、参加した皆さんに興味を持ってもらえた。住職さんからの日頃聞けない話やボランティアガイドさんの詳しい説明で、より深い学びができた。			

評価	国宝瑠璃光寺五重塔は、全国に現存する五重塔のうちで10番目に古く、美しさは日本三名塔の一つに数えられ、室町中期における最も秀でた建造物と評されている。地域のお宝・魅力を発信する事業として伝えることができた。
今後に向けて	アンケート結果を参考にして、この事業を地域に広めていきたい。まちあるきを計画しており、地域の皆さんの参加が大いに期待される。参加したくなる募集告知の打ち方も検討していきたい。今後も、地域のお宝(歴史、文化、祭り)を再発見・発信し続け大殿地域の魅力を伝え、学びたいと思っている。